

## 比良・武奈ヶ岳の（雪積期北尾根縦走）山行報告

【日程】2015年3月13日

【メンバー】K岡、I藤、T田

【報告者】K岡

《コースタイム》奈良発（5：00）～R477（6：20/6：55 ローソン合流）～栃生登山口（7：25/  
7：40）～イクワタ峰北（9：20）～釣瓶岳（10：20/10：30）～武奈ヶ岳（11：40/  
12：10）～イクタワ峰北（13：25）～登山口（14：40）  
行動時間：7時間



青空を背景に武奈ヶ岳山頂にて

《概要》

18歳の秋に高校の親友三人と比良の蓬莱山へ登ったのが比良山登山の最初である。今から約60年前のことであるが、山頂の一面の笹を背景に三人で撮った写真が今でも鮮明に記憶の奥にある。その後も足繁く通うことになった。その当時はマイカーなる便利な交通手段がなく公共の交通機関を利用したの山行なので比良山系は格好のところだった。

いまでは、いろんな方向からのルートも沢山ある。随分といろんなコースを歩いたが、何故か、比良の盟主・武奈ヶ岳北尾根に心を惹かれる。春秋も良いが冬の積雪期は魅力的だ。しかし、降雪の多い山系であるので新雪が多い時はなかなか頂上を落とせない。1月に坊村から頂上を目指したが雪に阻まれ敗退。2月の栃生からの北尾根もまたしても敗退。今回は雪も締まり少しは歩きやすくなっているとの期

待に意気込んでのリベンジとなった。さらに、あまりご一緒する機会の少ない、遠くから参加してくれるT嬢との山行で過去二回も雪で敗退している。その汚名を挽回したい気持ちが意気込になったのかも分からない。

何時もより、一時間早く奈良を5時に出発して7時前に477号線のコンビニで待ち合わせることにする。

予定より早く6:20頃着きT嬢を待つ。岡山の遠方から超長距離を早朝に車を飛ばしてくるのは大変なので、多分どこかのSAで仮眠してくるだろうとの予想通りで、7時前に合流できた。その熱意には脱帽である。

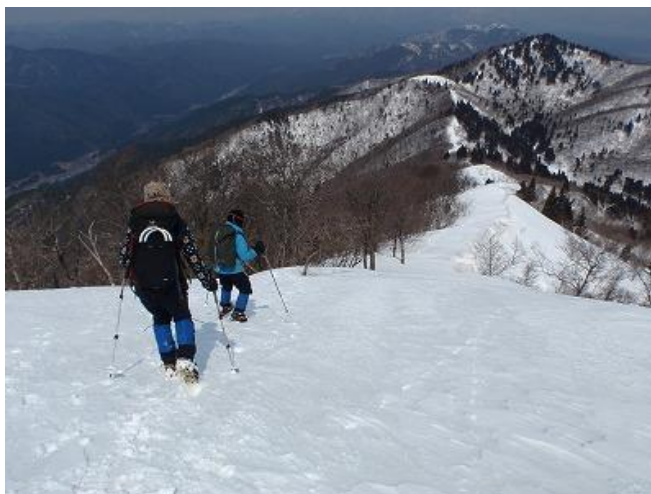
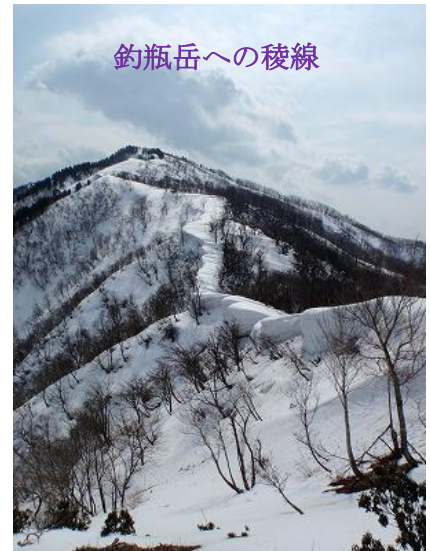
天気は心配ない。後は積雪状況だけだが下山が暗くなるかもしれない覚悟をして出発。歩きだすと植林を過ぎるあたりまでは殆ど雪がない。敗退した時より雪が少なく雪が締まっている。老中年パワーのアクセルを吹かせて休憩なしで尾根筋のポイント、イクワタ峰北に1時間40分で着く。ここから比良山系の山の背が南北に連なっている。

目の前に釣瓶岳への稜線が輝いている。大きな雪庇が幾重にも大きなうねりをなして東側に落ちこんでいる。稜線の積雪もかなりありそうだがクラストとしている。ここでアイゼンを装着。所々、膝の中程までの積雪のところもあるが斜面は堅雪になっていてアイゼンの効く感触を確かめながら登る。先般、敗退したところの釣瓶岳に着いたのは予定時刻より一時間早かった。

ここから細峠まで高度を一旦下げるが、そこから武奈ヶ岳の北尾根が一直線に輝いているのが見える。美しい光景だ。

少しアクセルを吹かし過ぎたのか、波うつ北尾根の急登には息が切れる。しかし、休憩なしで一気に頂上を踏んだ。ウイクデーであるので登山者は一人、二人だけ。単独登山者に記念撮影をお願いした後、雪稜を東側に少し降りたところで琵琶湖の北の山々を眺めながら食事をとる。心配した敗退もなく予定より早く頂上を踏めた安堵と充実感がきもちいい。

後は、一気にアクセルを吹かせて、最遅予想時間より2時間以上も早く下山することができた。



武奈ヶ岳北尾根の下降